

事業実績報告書

様式 2
(2022年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-20	講座名	都市近郊田で、無農薬のコメ作り、生きもの豊かな田んぼ作り
記載日	#####	団体名・企業名	NPO法人日進野菜塾

〈講座全体の概要〉(300字程度)

田んぼは里地里山の中核的存在であり、田なくして「里地里山」はない。しかし今日、米の消費が減り、田んぼの持つ生物多様性と、意義・関心が失われてきている。そもそも体験できる場がなくなっている。そのため本講座は、①田んぼでの栽培プロセスの体験機会を用意 ②生物多様性の豊かな恵み、無農薬・有機栽培方式の重要性を実地で学ぶこととしている。

全体で10回を組み、そのうちで草取りの参加者を増やすため、参加回数に応じて、収穫米を渡す仕組みとした。参加者は「自分の田んぼ」という意識を持ち、最後まで熱心に取り組んでくれた。



※写真1の説明

除草剤を使用しないので、手作業で根気よく草取りに取り組んだ。(7/17)

※写真2の説明

草刈ガマで手刈りした稲を、木と竹で作成した「ハザ」に天日干し。(10/2)

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

無農薬栽培米の最大の課題は、いかに雑草を防ぐかにある。そのためには継続して草取りに参加してもらう必要がある。前回同様に、参加回数に応じた量の収穫米をお渡しする仕組みを継続。その結果、草は抑えられ、参加者の意欲、参加率とも大幅アップ。米の収穫量も良好で、望ましいこととなった。この仕組みを今後とも継続したい。「こうすれば無農薬栽培米」方式を教訓化して、一般に開示、多くの人、団体が取り組めるようにしたい。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

○初めて田植えを体験し、子供にとって良い経験になって良かった。普段見れない生き物との出会い、米作りの大変さと米の大切さを学ぶことができて良かった。○分かりやすい説明で、知識がなくても理解できた。

○米ができる過程を体験を通して知り、食材へのありがたみを家族で実感することができた。○子供と共に身を持って学べる点が良かった。○子供にとっても良い経験になった。○毎回工夫して作業ができて楽しかった。○米作りの苦勞が分かり、米一粒を大切にしようと思った。